

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	教育学	必修	1年前期	10コマ・20時間	
担当教員	武田 利邦	背景	神奈川県立高校で33年教鞭をとってきた		
授業形態	講義及びグループ討論	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	その都度参考文献を指定				
授業概要 教育問題は、毎日のように大きく取り上げられながら、なかなか変化がないように見えます。どうしてそうなるのかを含め、最新の教育社会学や、教育史思想を検討しながら、具体的なトピックスを検証しながらともに考えていきたいと思えます。					
狙いと到達目標 教育問題のトピックスを中心に取り上げながら、広義の教育的営みである作業療法とどうつながるかを考えていきます。					
授業において実務経験をどのように生かすか 担当者は、県立高校の様々なレベルの高校に30年以上勤務してきました。その中で、不登校、いじめについていくつかの論文や、著書を残してきたので、それらも参考にしつつ、教育現場での経験を踏まえて、学生に説得力のある議論を提供したい。					
授業計画・内容					
1	教育学への招待、自己紹介授業へのオリエンテーション				
2	子どもの虐待から見える、親子関係の病理とその社会的背景				
3	いじめとは何か、いじめの普遍性とその根源にある現代社会の問題性				
4	「学校化社会」としての「近代」とその問題性。I・イリイチの「非学校化論」意味するもの				
5	「近代学校」の発生過程を通して、P・ブルデューの理論を検証する				
6	これまでの議論をふまえ、グループ討論と各自小論文の作成				
7	「不登校」とは何か、その可能性の意味するもの、東京YMCAリビエの活動など				
8	教育におけるジェンダーフリーの可能性を探る。				
9	教育における「遊び」の重要性について、ホムルーデンスの意味するもの				
10	最後に、教育の今後の課題と「作業療法」の関係				
評価方法	2度にわたる小論文によって評価を行う。				
自由記述 (メッセージ)	参考文献 武田の著書『進路不安症候群』、共著『講座現代キリスト教倫理Ⅲ』の武田の論文、『言ってもいいですか』における武田の論文、さらに入しやすい教育論については最初の授業において紹介解説します。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	心理学		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	田中 智子	背景	保健センター等の心理職経験 専門学校講師22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社「心理学」と随時資料配布				
授業概要 心理学のさまざまな分野から、人間の理解に役立つと思われるテーマを取り上げ、基礎的な知識を学ぶとともに、自分自身や臨床で出会う可能性のある人の行動や心の背景を考える機会を作る。					
狙いと到達目標 認知過程、学習の理論、心の構造などの基礎的な知識を理解し、必要に応じて想起できるようになる。 認知や行動の一般的な傾向と一般的でない働きがさまざまな場面で生じることを知り、人について考え、今後臨床の場面で出会う方々の状態を考えるヒントにできる。 共通性、固有性、複雑さ、単純さ、強さ、弱さなど、人のさまざまな側面を感じてほしい。					
授業において実務経験をどのように生かすか 心理学の基礎的な知識とともに、それらに関連していると考えられる疾患や障がいなどについて、病院、障がい児施設、保健センター等での業務でお会いした方や経験したことなども含めて伝えることで生かしたい。					
授業計画・内容					
1	心理学の歴史 科学としての心理学のはじまりとその後の展開				
2	認知心理学(感覚、知覚、認知)人が外界の情報をどのように処理し体験するかについて				
3	認知心理学(知覚の不思議、知覚の発達)恒常性や錯覚など知覚に生じる傾向と背景について				
4	認知心理学(記憶) 記憶の過程、記憶の種類、記憶にある傾向について				
5	学習心理学(本能と学習) 学習とは何かについて、また本能など無学習行動について				
6	学習心理学(条件づけ学習) 条件づけ学習とその応用について				
7	学習心理学(観察学習、洞察学習、動機づけ) 観察学習、洞察学習、マズローについて				
8	意識と無意識 フロイトの考えた心のしくみについて				
9	適応と適応機制 適応とはどういう状態か、またフラストレーションと適応機制について				
10	人格心理学 人格(性格)の理論、人格の形成、人格の変化のついて				
11	心理検査 代表的な人格検査について				
12	心理検査 人格検査の実施と自己分析(課題提出)				
13	コミュニケーション 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて				
14	社会心理学(集団と個人) 集団の中での個人の行動について				
15	社会心理学(対人認知、説得的コミュニケーション) 対人認知や説得技法について				
評価方法	提出課題 10% 筆記試験 90%				
自由記述 (メッセージ)	教科書や資料にあることを、自分なら、または自分の身近に起きたことなら、など近くに置き換えて考える、積極的に感じるということで参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	社会学	必修	1年前期	10コマ・20時間	
担当教員	佐々木和裕	背景	専門学校を中心に教育歴30年		
授業形態	座学中心	実務家教員 である			
受講ルール	まわりに、迷惑をかけない。ノートを取る。スマホ持参				
受講条件	社会について常に問題意識を持つことができる人(やる気のある人)				
教科書等	プリント配布				
授業概要 社会を考えるための必要不可欠な社会学の基礎概念を理解する。現代社会を理解、考えていく。社会の中にある、不思議な事、変わっていると思うことを考える力をつけていく。					
狙いと到達目標 受講生が、社会学とは何かという意識を持ち、社会学の基礎的知識を身につけること、そのことによって私たちの生きる社会について分析し、考察できる基礎力を養う。将来医療人として、コミュニケーションの取れる、人の話を聞ける人になって欲しい。					
授業において実務経験をどのように生かすか 専門学校を中心に、教育歴30年、成年後見人として、10数年経験したことが、社会の変化を考え、人間の一生を考えることができる。社会学における、ライフコース、ライフサイクル、ライフステージについてより深く考えることができる。					
授業計画・内容					
1	社会学について	授業概要・日程について説明			
2	社会学のあゆみ 1	社会学の歴史			
3	社会学のあゆみ 2	社会学の歴史			
4	行為と行動	マズローの欲求階層説、ウェーバーの行為の4類型			
5	集団と組織	組織とコミュニケーション 社会集団について			
6	地域社会	地域とコミュニティ 自然村と行政村			
7	社会的地位、役割	役割期待、社会化、印象操作、役割距離			
8	社会階層について	社会階層、社会階級、職業威信、格差社会			
9	ジェンダー	ジェンダーの理解、性別役割、職業労働と家事労働			
10	家族と社会	家族の基本概念、親密な存在ゆえの難しさ(愛情と憎悪)			
評価方法	筆記試験 100%				
自由記述 (メッセージ)	少年老い易く学成り難し				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	情報科学	必修	1年前期	15コマ・30時間	
担当教員	大野田 和弘	背景	ICT系専門学校講師歴30年		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	改定2版 J検情報活用3級 完全対策公式テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)				
授業概要	<p>情報化に主体的に対応するための基礎的な知識を習得するとともに、クライアント環境のパソコンの操作・利用と役割・機能、および情報の利用、情報モラルなどに関わる基礎知識を学習する。</p>				
狙いと到達目標	<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報表現と処理手順が理解できる。 ・パソコンの基本構成とその取扱い、アプリケーションソフトの活用が理解できる。 ・インターネットの基本的な仕組みと利用方法が理解できる。 ・日々の生活とコンピュータとの関わり合い、情報モラルが理解できる。 				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>医療従事者に求められている様々な業務処理において、情報科学の基礎知識ならびにICT(情報通信技術)の活用能力を生かす。</p>				
授業計画・内容					
1	情報科学とは何か				
2	情報とデータ 情報の表現				
3	数値データと論理データ				
4	問題解決の方法				
5	パソコンの基本構成 ハードウェア				
6	ソフトウェアとオペレーティングシステム				
7	入出力装置 記憶装置				
8	インターネットの基礎知識				
9	メールソフトとWWW				
10	アプリケーションソフト ワープロ				
11	表計算 データベース その他				
12	高度情報化の進展と課題				
13	情報モラルの重要性 ネットワーク				
14	個人情報保護法と著作権				
15	情報科学の活用				
評価方法	<p>試験・課題・確認テスト 90%</p> <p>出席状況・授業態度 10%</p>				
自由記述 (メッセージ)	<p>作業療法において、ICTは評価機器ならびに支援機器として有効な手段である。クライアントの心身機能や生活能力を測定評価するものとして、また、クライアントの支援機器や福祉用具としても新しい技術が期待されている。これらの知識を習得し、現場での活用を提案できる人材になって欲しい。</p>				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間関係学	必修	1年前期	15コマ・30時間	
担当教員	渡辺 俊彦	背景	牧師32年	教員歴36年	児童養護施設園長
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 人間が生涯、関係を持たなければならないのは自分自身である。そのため自分自身との関係性をアセスメントしながら自己理解を深め自分自身に対する気づきが起こるような内容とする。そして、他者理解と他者との健全な関係性のあり方に気づく。					
狙いと到達目標 成育歴で何を受け学習してきたのか。そして、自分との関係性の中で何を修正することが自分にとって最善なのかを具体的に示す。そして、不適切なところを修正し適切な関わり方や出し方ができるようになる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 自分との関係性と自己理解を深めることは他者との関係性と他者理解へと繋がる。そのため、日常の人間関係のみならず、実習や専門職として仕事をするときクライアントと健全な関係性を構築するために生かす。					
授業計画・内容					
1	コミュニケーションとは何か				
2	自己概念について(Ⅰ)				
3	自己概念について(Ⅱ)				
4	自己概念について(Ⅲ)				
5	自己開示と関係性				
6	怒りについて				
7	自己分析(テスト)				
8	五つの私				
9	自己と他者との四つ関係性				
10	ゲームについて				
11	バウンダリー(Ⅰ)				
12	バウンダリー(Ⅱ)				
13	バウンダリー(Ⅲ)				
14	バウンダリー(Ⅳ)				
15	まとめ				
評価方法	授業態度 20% レポート 80%				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間工学	必修	2年前期	15コマ・30時間	
担当教員	田中 繁	背景	1973年より障害者リハ現場にて研究、大学教授を兼任		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	自作のテキストを使用				
授業概要 各テーマの中に、実験的なことや演習的なことも含めて講義を進める。解剖学などのように記憶を中心とした授業に対して、この人間工学は因果関係を元に“考えてもらう”ことを中心とした講義とする。実験的なことに加えて、パソコンを利用したりして工学的な学問の一端を知ってもらう。 キーワード: 工学、計測、評価、実験、パソコン					
狙いと到達目標 この講義では、人間工学の基礎について学ぶ。学生の学習目標は以下の通り。①人間工学とはどのような学問なのかを理解できるようにする、②人間工学とそれぞれの専門性との関係を知る、③人間工学で使われる基礎的手法(一部)を理解できるようにする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 福祉・リハビリテーション現場の状況、あるいは福祉用具などに関連づけたテーマを取り上げ、それを介して工学的な論理展開などについても学べるようにする。					
授業計画・内容					
1	人間工学概要—1 人間工学の全体像、特に人間と環境の関係について				
2	人間工学概要—2 人間工学の全体像、特に人間工学を支える学問について				
3	作業研究—1 作業研究の概要、歴史など				
4	作業研究—2 作業研究の手法				
5	作業研究—3 サブリッグによる作業分析				
6	人体計測と統計—1 計測、測定の概要				
7	人体計測と統計—2 計測実験(人体と物体の長さ計測を実施)				
8	人体計測と統計—3 計測データの分析(パソコン使用)				
9	官能検査—1 官能検査の意味と実験				
10	官能検査—2 官能検査実験と分析				
11	官能検査—3 官能検査のまとめ				
12	バイオメカニクス—1 運動学とバイオメカニクス、人間工学における意味				
13	バイオメカニクス—2 ニュートン力学とバイオメカニクス				
14	バイオメカニクス—3 人体とバイオメカニクス				
15	まとめ				
評価方法	試験、授業態度により評価する。試験による評価では教授した内容に関する理解度を推定し、採点する。 試験7割で点数の通り。授業態度3割で、グループ活動などで判断する				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	医学英語	必修	1年前期	10コマ・20時間	
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版 メジカルビュー社				
授業概要 身体構造、部位、筋・神経、疾患、略語等を表す医学英語を学び、覚える。					
狙いと到達目標 作業療法士が働く医療現場で日常的に用いられる、『医療用語』『リハビリ用語』『略語』等を、英語で理解し、これからの勉強や実習での理解がスムーズに進むようにする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 今学んでいる言葉が、実際の現場でどのように使われているのか、特に作業療法士の現場での経験を生かしながら伝える。					
授業計画・内容					
1	リハビリテーションに関する用語				
2	リハビリテーションのための人体の基礎知識①(断面と方向、関節可動域)				
3	リハビリテーションのための人体の基礎知識②(関節可動域、主要関節と部位)				
4	人体の構造①(骨格系)				
5	人体の構造②(骨格系・筋肉系)				
6	人体の構造③(筋肉系)				
7	人体の構造④(筋肉系・神経系)				
8	人体の構造⑤(神経系)				
9	疾患とリハビリテーション①				
10	疾患とリハビリテーション②				
評価方法	小テスト50%、定期筆記試験50%				
自由記述 (メッセージ)					